




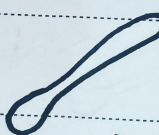
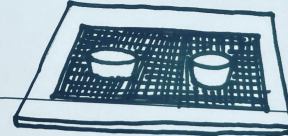
# しおんだより VOL.19



医療法人嘉健会  
思温病院  
SHION HOSPITAL

とろみ	薄	(中)	濃	
用具				
摂取方法	全介	(一部)	自立	
スプーン	(小)	・大		
一口量	少量			

Use a long spoon.  
長いスプーンを  
わけて下さい。

最終目標: Please put a non-slip sheet under the jelly.  
すべり止めのシートをゼリーの下に置いて下さい。

## ご飯を食べることを、チームで支える

体調を崩して入院されると、どうしても食事が摂れなくなることがあります。肺炎や尿路感染症などで発熱している時や脳梗塞の後なども、食事が食べられない時があります。また、治療を進めていく上で、特に誤嚥（食べ物が入って気管に入ってしまうこと）している場合などには、治療の一環として食事を差し控えていただくことがあります。一方、入院して治療を開始すれば、退院を目指して色々な専門職が力を合わせながら、再度食事を摂ることができるよう全力でサポートしています。

食事の介助にあたるケアワーカーさんには、外国の方もいらっしゃるのので、英語でも指示が書かれています。国際的ですよ！

治療そのものは、医師の診断と投薬によって進んでいきますが、それだけでは、なかなか食べられるようになりません。当院では、実際に飲み込めるかどうかを細いカメラでチェックして調べたり、口腔ケアを行って環境を整えたりするだけでなく、食事の固さや大きさ、飲み物のとろみを工夫したりします。また、薬によっては飲み込みや食欲に影響を及ぼすことも多いですし、飲み込む力を訓練するリハビリも必要です。

当院では、医師や看護師だけでなく、色々な専門職が知恵を出し合いながら、ご飯を食べることができるように、チームで支えることにも積極的に取り組んでいます。

## 食べられない時には、次の手段も考えます

食べることが出来ないときには、まず点滴で水分補充します。ただ、色々な治療やサポートによっても食べられないような時には、中心静脈栄養といって身体の太い血管に点滴の管を入れたり、経鼻胃管という細いチューブを入れたりして、栄養分と水分を確保するようにして、この間に、食事を再開したり、内容をアップしたりする取り組みをすすめていきます。

その結果、少しずつでも食べられるようになれば、太い血管への点滴も、お鼻から入れているチューブも外すことができますが、患者さんの状態によっては難しいケースがあります。

そんな時には、皮膚の下に点滴ができるような器具（中心静脈ポート）を留置する処置や、胃の壁とお腹の壁を貫く管（胃瘻）を造設する処置を行なう必要もあります。このような栄養と水分のサポートをしながら、お薬の調整やリハビリを継続していくことで、また食べられるようになることもあります。



こういった処置も、外科や消化器内科の先生とも連携しつつ、院内で安全に行えるような体制を作り、患者さんの栄養状態をトータルでサポートできるようにしています。

## 今年も、「胡蝶蘭」の花がたくさん咲き始めています！



白や薄紫の色の花を見ながら癒やされています…

以前のしおんだよりでも一度、ご紹介しましたが、当院の5階には、たくさんの胡蝶蘭の鉢があります。これらは、当院の改装が終わったときなどに、お祝いいただいた後、一旦は花が落ちてしまったものを、植え替えているものです。それを当院の清掃のスタッフの方が、寒いときも暑いときも、丹念にお世話下さっていて、もう4年めになりますが、毎年この季節にきれいな花を咲かせてくれます。

胡蝶蘭は、花が落ちてしまうと、茎だけになってなんとも殺風景な感じになりますが、そこで諦めて捨ててしまうのではなく、水分と温度と日光を調節しながら粘り強く世話をしていると、また美しく咲いてくれるのです。このことは食べられなくなった患者さんを、諦めずにサポートし食べられるようになることと似ていると思うのです。（文責：狭間研至）

しおんだより 第19号 発行日：令和4年5月15日

発行人：狭間研至 発行元：医療法人嘉健会 思温病院

☎557-0034 大阪市西成区松1-1-31 電話06-6657-3711 HP: [www.shion-hp.or.jp](http://www.shion-hp.or.jp)